

令和元年6月17日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26463405

研究課題名(和文) 高度周産期医療施設勤務助産師のワークエンゲージメント向上プログラムの開発

研究課題名(英文) Work Engagement of Midwives Working at Advanced Perinatal Medical Facilities in Japan

研究代表者

小泉 仁子 (Koizumi, Hitomi)

筑波大学・附属病院・看護部長

研究者番号：20292964

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：高度周産期医療施設に勤務する助産師のWork Engagement(以下WE)について量的横断研究を行った。全国の総合周産期母子医療センター105施設の中で研究協力を得た施設の助産師を対象に調査し、WEと関連する項目の関連性の分析、助産師と看護師のデータの比較を行った。その結果、助産師のWEは看護師と差は認められなかった。また助産師は看護師よりMeaningfulness of work、成長の機会、Work self balance(positive)が高く、Role conflictは低かった。高度周産期医療施設に勤務する助産師のWEには意義ある仕事をしているという誇りが影響していた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ハイリスク妊娠分娩を管理する高度周産期医療施設に勤務する助産師のWEについて、看護師との比較することにより、その現状と関連要因を明らかにすることを目的とする。

高度医療施設に勤務する助産師は、リスクの高い妊産婦のケアを担っており、自律性や専門性に関する葛藤が生じやすいと予測される。高度周産期医療施設に勤務する助産師のWEに関連する要因が明らかになることで、1施設内に少数である助産師の教育体制を整備する知見となる。また職場定着やメンタルヘルスの向上、ケアの質の向上が期待できる。

研究成果の概要(英文)： Participants were 503 midwives working at 36 centers, and a comparison group of 125 nurses working at university hospitals. This study was approved by the Medical Ethics Committee of the University of Tsukuba hospital. No significant differences in work engagement were observed between midwives and nurses. Midwives were found to have higher scores for "meaningfulness of work", "opportunities for growth", "work-self-balance (positive)" and "evaluation of quality of nursing and midwifery in their own department", but scored lower in "role conflict". Individual factors that contributed to work engagement for midwives were "higher age", "higher self-efficacy" and "having a partner", while work factors were "meaningfulness of work", "predictability" and "good physical environment". Factors relating to support were "existence of role-models" and "support from doctors" ( $R=.545$ , adjusted  $R^2=.287$ ). Having children was not found to be related to the level of work engagement.

研究分野：看護学

キーワード：助産師 ワークエンゲージメント 高度周産期医療施設

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19（共通）

### 1．研究開始当初の背景

WEとは仕事に対する「ポジティブで充実した心理状態」であり、バーンアウトに対立する概念として定義されている。少子化・産科医の不足による分娩施設の集約化や、ハイリスク妊娠の増加などの変化により、安全で良質な周産期医療体制の構築が課題となっている。助産師は、自立してローリスクの母子のケアを担うことを期待される一方で、ハイリスクの母子に対して心理的・社会的・倫理的側面も含めたケアを行うことが求められている。しかし高度周産期医療を担う大学病院で働く助産師の約40%が経験5年に満たない。高度医療施設に勤務する助産師は、リスクの高い妊産婦のケアを担っており、自律性や専門性に関する葛藤が生じやすいと予測される。高度周産期医療施設に勤務する助産師のWEに関連する要因が明らかになることで、1施設内に少数である助産師の教育体制を整備する知見となる。また職場定着やメンタルヘルスの向上、ケアの質の向上が期待できる。

### 2．研究の目的

本研究は、ハイリスク妊娠分娩を管理する高度周産期医療施設に勤務する助産師のワークエンゲージメント（Work Engagement：以下WE）について、看護師との比較することにより、その現状と関連要因を明らかにすることを目的とした。

### 3．研究の方法

研究デザイン：質問紙調査による量的横断研究。

調査方法：高度周産期医療施設を有するT大学病院に勤務する看護師には自己記入式質問紙を配布し、無記名留置きによる回収を行う。また全国の総合周産期母子医療センター105施設の中で研究協力を得た施設の助産師に自己記入式質問紙を配布し郵送による回収を行った。

調査内容：以下の項目について無記名による回答をもとめた。回答にかかる時間はおよそ20～30分である。

- ・ 属性 年齢、性別、看護師および助産師経験年数および所属施設勤務年数、勤務病棟、勤務時間、勤務体制（夜勤の有無など）、育児経験、同居家族の有無
- ・ ワークエンゲージメント日本語版 UWES-J 短縮版（Schaufeli 2002, 島津ら 2007）の9項目
- ・ 新職業性ストレス簡易調査票（川上ら 2014 から）の77項目
- ・ 一般性セルフ・エフィカシー尺度（坂野ら 1986）の16項目
- ・ アサーティブ・マインド・スケール（伊藤 1998）の20項目
- ・ 医師との信頼関係、看護の質および医療の質への自己評価、職務環境に関する質問 17項目
- ・ 仕事に対する内的報酬および外的報酬への価値観に関する質問 11項目
- ・ WEに関連した文章完成方式の記述回答を求める質問 6項目

分析方法：SPSS と Amos を使用し、各項目の集計、WE と関連する項目の関連性の分析（Speaman の相関係数）、助産師と看護師のデータの比較については t 検定および Mann-WhitneyU 検定、WE に関連する変数のモデリングには多変量解析を行う。

調査の実施内容：2015年11月16日に倫理申請を行い、平成28年1月4日に承認された。2月12日にT大学病院看護師731名に質問紙を配布し、留め置き法により3月中旬までに133名を回収した（回収率18.2%）。2月8日、105か所の施設の看護部長あてに研究協力依頼書を配布し、36施設の協力同意を得た。2月19日から順次施設宛に質問紙を郵送し総数944名分配布した。郵送により3月末までに511名を回収した（回収率54.1%）。

#### 4 . 研究成果

105 か所の施設の看護部長あてに研究協力依頼書を配布し、36 施設の協力同意を得、質問紙を 944 名配布した。503 名を回収した（回収率 53.8%）。

助産師の平均年齢は 34.6 歳であった。教育歴は、大学（短期大学を含む）卒業が 57.7%、専門学校卒業が 41.0%、大学院修了が 1.4%であった。婚姻状況は既婚が 44.5%、未婚が 52.3%であった。仕事の満足度は、満足が 3.6%、まあ満足が 86.7%、不満足が 9.7%であった。家庭生活の満足度は、満足が 15.1%、まあ満足が 76.3%、不満足が 8.0%であった。育児経験があるものは 36.2%、育児経験がないものは 63.8%であった。

助産師の WE は看護師と差は認められなかったが、助産師は看護師より「Meaningfulness of work」「成長の機会」「work-self-balance (positive)」「自分の部署の Quality of Nursing and Midwifery への評価」は高く、「Role-conflict」は低かった。助産師の WE に影響する個人的要因は「年齢が高いこと」「Self-efficiency の高さ」「パートナーがいること」、職務要因は「Meaningfulness of work」「Predictability」「Good physical environment」、サポート要因は「ロールモデルの存在」「医師からのサポート」であった。また、記述内容より、1) 仕事を通して自分が人として成長したと感じた時、2) 仕事を続けていてよかったと感じた時、3) この仕事は自分に合っていると感じた時、4) 対人関係をスムーズにするために心がけていること、5) 目標としている助産師の魅力、6) 育児の経験がプラスになったと感じた時、について、質的帰納的に分析した。

考察：助産師のワークエンゲージメントには、「意義ある仕事をしている」という誇りが影響していると考えられた。さらなるワークエンゲージメントの向上のためには専門職としてスキルアップできる環境を整えることが必要と考える。

#### 5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 2 件)

Hitomi Koizumi and Yuriko Kusumi: Work engagement of midwives at advanced perinatal medical facilities in Japan, TNMC& WANS International Nursing research Conference, Thailand, Oct.2017 (査読あり)

Hitomi Koizumi and Yuriko Kusumi: Work Engagement of Midwives working at Advanced perinatal medical facilities in Japan, 22<sup>nd</sup> EAFONS Conference, Singapore, Jan.2019 (査読あり)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等  
なし

6. 研究組織

(1) 研究分担者

常盤洋子 (Tokiwa, Youko)

群馬大学・大学院保健学研究科・教授

研究者番号：10269334

立石 彩美 (Tateishi, Ayami)

順天堂大学・医療看護学部・准教授

研究者番号：00514861

山海千保子 (Sankai, Chihoko)

筑波大学・附属病院・副看護師長

研究者番号：90438101

川野亜津子 (Kawano, Atsuko)

筑波大学・医学医療系・准教授

研究者番号：10550733

江守陽子 (Emori, Youko)

筑波大学・医学医療系・名誉教授

研究者番号：70114337

楠見由里子 (Kusumi, Yuriko)

筑波大学・附属病院・副看護師長

研究者番号：00382820

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。